

がんばろう 南三陸町

復興第90号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所
千葉総合印刷株式会社
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL(46) 3069 FAX(46)3068
企画・編集
志津川広報センター

今年も志津川地区の「東山の桜」は三部咲きとなりました！ (令和2年4月7日)



第9回追悼式典

令和2年の第9回目になる「南三陸町追悼式典」は、アリーナ「交流ホール」において開催されたものの、「新型コロナウイルス問題」の発生により大幅に縮小され、午後2時～午後7時まで会場において献花をおこなった。
会場では役場職員が、消毒とマスクをしていない方にはマスクを渡していた。慰霊塔の前の献花台が設置された場所までは、職員が来場者を案内してくれた。



広島から新一年生に「愛の福袋」が届く



大震災発生から南三陸町の住民に「愛の福袋」や「掛け声」を仮設生活者に続け、再建が進み新たな支援活動が昨年からはまった。

震災後に生れ「新一年生」となった子供たちに、入学祝いの品々と共に、絵はがきに言葉を添えた活動が昨年からはまり、2年目を迎えた。広島県や山口県・島根県から、町内5校の小学校に73個のプレゼント(手作りバック)が届いた。

南三陸町人口の推移

(令和2年1月末現在)

	南三陸町	志津川	戸倉	入谷	歌津
22年3月	17,815	8,294	2,433	1,907	5,181
30年11月	12,999	5,331	1,424	1,954	4,290
2年1月	12,668	5,159	1,381	1,931	4,197
31年1月からの増減数	-319	-169	-53	-21	-83
元年12月からの増減数	-23	-11	-3	3	-6
世帯数	4504	2040	469	651	1344

(2020年1月の新聞記事より)

・1月の出生4人、死亡は20人

南三陸町から結婚した～い！

30歳前後の男性・女性大募集

TEL(080-1801-6399 千葉まで)

1日でも早くパートナーを見つけ出会い、恋愛、デートそして成婚、結婚生活へ。一度相談ください。町内の仲間があなたを待っています。

南三陸町のキラキラ出会い応援事業にも多くの町内の独身の男女が挑戦しています。

未来への教訓

復興！大津波の記憶を風化させない

令和元年(2019年) 10月の出来事
～地元報道より～

南三陸町

◆1日から可燃ごみの有料化がスタート。住民が購入する可燃ごみの指定袋の代金が、処理手数料として町に入る。有料化の導入により、ごみの削減効果、資源化を狙うもの。

◆29日町総合体育館「ベイサイドアリーナ」で、南三陸町福祉・健康まつりが開かれた。町内外の福祉事業所や企業など約30団体がブースを設けた。各施設の活動を紹介したり、障害者ら施設利用者が手掛けた作品の展示販売を行なったりした。

◆6日入谷地区でワイン用ブドウの初収穫が行われた。地元で育てた高品質な「南三陸ワイン」の生産に向けた手応えをつかんでいた。来春にも歌津地区にブドウ栽培畑を拡張する計画で、来年8月には町内に醸造所を開設する予定。

◆一般社団法人日本旅行業協会の役員らが、3日と4日気仙沼市と南三陸町を訪れ、「みちのく潮風トレイル」などを視察した。県内は今回が初めてで、役員や会員会社の幹部を含む68人が参加。

◆台北市から教育旅行の小学生が訪れていて、名足小学校を訪問し、児童と交流を深めた。2日から町内を訪れているのは、台北市文山区の萬興国民小学の5、6年生32人と教員で、3日に志津川小学校、5日は南三陸さんさん商店街などを訪れ、6日に帰国する。

◆志津川東地区復興住宅中央広場で、「走らないミニ運動会」が10日開かれた。復興住宅をはじめ、町内の住民や近くのあさひ幼稚園の園児ら約120人が参加した。気軽に参加できるように、種目から走ることを除いたユニークな企画。

◆志津川湾水系さけます増殖協会は、今シーズンも沿岸漁業者による網揚げを行なうことを、9日志津川魚市場で開いた総会で決めた。協会は大震災前レベルの1千万匹以上の稚魚放流を目標にしているが、自河川での種卵確保は近年きびしい状況が続いている。

◆厚生労働省が再編・統合を促すため公表した全国の公立病院が含まれている。町長は定例会で統合の必要性はないとの考えを示した。

◆志津川では台風19号により、24時間雨量が観測史上最大を記録した。12日午後4時までに町内10カ所に避難所を開設。約1500世帯に避難勧告を出した。9ヶ所に最大185人が身を寄せた。
入谷地区では全域の約600戸で断水した。町道でも道路が陥没して通行止めになるほどの被害が出た。床上、床下浸水被害もあった。
◆台風19号による農地への土砂流入、川や沢の増水による法面崩壊などの被害報告が多く寄せられた。戸倉地区の畑では、土砂が流入して葉物が被害を受けたという。
◆記録的な大雨をもたらした台風19号により、志津川、小森、御前下地内の店舗などでは、被災から2日が経過したが従業員らが片付け作業などに追われている。

◆南三陸署などが、15日の年金支給日に七十七銀行志津川支店前で高齢者らに、特殊詐欺被害にあわないよう注意を呼び掛けた。県内の特殊詐欺被害は今年9月末現在172件・2億2千万円と、前年同期と比べて減少している。

◆東京電力福島第一原発事故で汚染された、牧草の先行すき込み処理作業を28日からおこなう。町内16軒の農家で保管していて、入谷桜沢地内の牧草地に混ぜ込む。

◆復興支援を通じてつながりのある大正大学は、2016年に地域創生学部を開設。南三陸研修センターが主体となって受け入れている。今年は22人が約40日間にわたって滞在し、生産者や事業者らの協力を受けながら、観光やコミュニティーづくりなどをテーマに、研究を行なっている。

◆20日歌津地区の船員OBでつくる歌津海友会が、管の浜漁港などで清掃作業を行った。例年、

名足小学校の児童と一緒に長須賀海岸で清掃活動を行なっていたが、今年は防潮堤工事に伴ってできなくなったため単独で実施した。

◆2011年8月に初めて南三陸町にボランティアに入った山形県米沢市の筈掛さん(80)は、あさひ幼稚園の被災を知った。山形に戻って地元の学校などに絵本やおもちゃの協力を呼び掛け、南三陸町に届けた。ほかにも被災した保育所があることを知った筈掛さんは、果物などを届けたほか紙芝居を持参して子供たちを喜ばせてくれた。その活動を振り返る写真展が総合ケアセンター南三陸で開かれた。

◆南三陸ハマレ歌津に、ポケモンのキャラクター「ラプラス」が描かれたマンホールのふたが設置された。早速写真を撮りに来るファンもいて、オリジナルのマンホールふたを目当てに各地を巡るファンもいるという。

◆24日南三陸ホテル観洋で、外国人の視点から被災地の記録と伝承について考える講座が開かれた。災害研究などをテーマに、情報共有や意見交換をおこなっている神戸大学都市安全研究センターのオープンゼミナールとして開催され、語り部活動を行なっている関係者ら約30人が参加。

◆南三陸町生涯学習センターで26日、1分間で自分の思いや夢を語るイベント「Talk Your Will in 南三陸」が開かれた。小学生から50代までのプレゼンターが町内、気仙沼市、仙台市などの学生や農家、漁業者らが、日頃から感じている思いや、未来への希望などを1分間にまとめて発表した。

◆27日志津川湾鮭いくらまつり福興市が、志津川仮設魚市場特設会場で開かれた。サケの一本売りは、開始前から列をつくるほどの人気ぶりだった。ミニミニいくら丼の無料試食会がおこなわれたほか、17店舗のブースでは「サケづくし」のメニューが並んだ。

◆八幡川、水尻川で28日、今シーズンの捕獲作業が始まった。捕獲開始は、台風19号などの影響で延期していた。捕獲数は昨年初日の5分の1と厳しいスタートとなった。

伊里前市街地の 国道45号一部区間開通へ

(令和2年3月31日撮影)

「BRT橋」

市街地から田東山へは大きく迂回



伊里前川の河川堤防の整備完了も

◀旧歌津駅前に「あと8日」の看板

45号の伊里前橋とBRTの鉄橋が並ぶ

工事が急ピッチで進む

「ハマーレ歌津」商店街

(国道45号線から直接駐車場へ)

未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

令和元年(2019年)
～地元報道より～

11月の出来事

南三陸町

◆志津川小学校で気仙沼信用金庫のマネースクールが、29日開かれた。信用金庫の職員が講師を務め、お金に関するクイズなどもあり、5年生30人が楽しく学んだ。

◆秋の褒章受賞者の発表があり、更生保護功績で保護司の阿部勝衛氏(歌津番所)が藍綬褒章を受ける。保護司は、罪を犯した人たちの更生を手助けする民間ボランティアで、生活を見守り、時に相談に応じるなど、社会復帰を支える重要な存在。現在は登米南三陸地区保護司会理事。

◆1日、南三陸町小中学校音楽祭が町総合体育館「ベイサイドアリーナ」文化交流ホールで開かれ、全7小中学校から約280人が出演した。美しいハーモニーや迫力の演奏を披露した。会場に訪れた保護者らから大きな拍手が送られていた。

◆西日本豪雨で被災した岡山県倉敷市真備町でジャズ喫茶「ごじとま」を営む高本さん夫婦が、南三陸町を訪れコーヒーを振る舞った。店の復旧支援で縁がある南三陸町に「何とか恩返しをしたかった」と、おいしいコーヒーを届けてくれた。

◆台風19号の被災地の皆さんの少しでも力になればと、志津川中学校で生徒や保護者が募金を集め、町に義援金として寄託した。

◆政府は秋の叙勲受賞者を発表した。南三陸町からは、元南三陸町消防団副団長の佐藤芳則氏(入谷水口沢)が、消防功労で瑞宝単光章を受章する。

◆志津川地区で建設を進めている「中橋」の架設作業が始まった。中橋は八幡川に架かり、南三陸さん商店街や道の駅予定地などを結ぶ。完成は20年度半ばを目指す。

◆県は「文化の日」表彰の受賞者を発表した。南三陸町からは、元町議西條榮福氏(戸倉沖田)、町議山内孝樹氏(歌津樋の口)、消防団分団長高橋和宏氏(志津川秋目川)、消防団副団長元木幸雄氏(入谷大船沢)、統計調査員渡邊熊義氏(志津川平磯)。

◆かつてない不漁の小型サンマ漁船が操業を再開した。南三陸町の4隻も約2カ月間にわたって休漁していた。

◆戸倉地区では台風19号で、ギンザケ稚魚の数が例年より少なくなる見通し。搬入元の養魚場が被災したため、水揚げ額に換算して、1億円以上に上る可能性もある。

◆10日午前7時30分から、総合防災訓練が行なわれる。戸倉地区を主会場に約4800人が参加。町内行政区での避難訓練も同時に行われる。

◆8日入谷地区の民有地に、汚染された牧草をすき込む先行処理を行った。来春に行う土壌や牧草の検査で安全性に問題がなければ、来年秋から本格処理に移行する。

◆志津川湾でマダコのかご漁が解禁となり、初日は例年並みの数量が並んだ。8日志津川魚市場に初水揚げされた。

◆「みやぎ発明くふう展」で歌津中学校1年生佐藤悠生君が、県教育長賞を受けた。風の力で走る車の模型を製作し初入賞。発明くふう展は発明に対する関心を高め創造力を養うことなどを目的に、年1回開かれている。

◆戸倉地区で来春の出荷に向け、稚魚の搬入が始まった。海水温が高かったため、昨年より9日遅い10日から始まった。稚魚の搬入総量は、例年の1割減の109トンとなる見込み。

◆2006年に始まったマニフェスト大賞のコミュニケーション戦略賞部門で、ホテル観洋が最優秀賞を受賞した。語り部活動を震災直後から継続し、被災地の現状や課題を伝え、交流人口の拡大や防災・減災への取り組みを発信し続ける姿勢が高い評価を受けた。

◆南三陸町と共立女子大学・同短期大学が連携協力に関する協定を締結した。町役場で報告会が12日開かれた。来年度から学生が町を訪れて地域活性化や課題解決を目的にしたフィールドワークを実施するほか、地域の特産品を生かした献立づくりなどを展開する。

◆13日東日本大震災で被災した名足小学校に、「GPSランナー」志水直樹さん(兵庫県西宮市)が、活動を通じて集めた支援金を届けた。小学生の時に阪神・淡路大震災を経験していて、2012年から大阪大学の復興支援グループとともに名足小で夏休みに子どもたちの学習支援を継続した。津波で被災した校舎の復旧作業も手伝った。

◆南三陸消防署は18日から、外国出身者を雇用している町内の事業所を訪問し、外国語版の防

南三陸町人口の推移

(令和2年2月末現在)

	南三陸町	志津川	戸倉	入谷	歌津
22年3月	17,815	8,294	2,433	1,907	5,181
31年1月	12,987	5,328	1,427	1,952	4,280
2年2月	12,650	5,142	1,381	1,926	4,201
31年1月からの増減数	-337	-186	-46	-26	-79
2年1月からの増減数	-18	-17	0	-5	4
世帯数	4500	2034	469	649	1348

(2020年3月の新聞記事より)

・2月の出生3人、死亡は16人

志津川広報プラザイベント

紅谷恵美子(旧姓千葉恵美子) [第2弾] ポタニカルアート展

【開催順延】新型コロナの問題により延期します

志津川本浜 志津川広報プラザにて(志津川駅海側隣)



ポタニカルアート創作のかたわらで書家の先生の元で、毛筆の作品創作も同時に行っていた。千葉印刷代表 千葉賢二郎の妹、千葉家四女として遠くから我が家を見守ってくれていた。

火パンフレットを配布している。外国人労働者に火災発生時から避難までの初期行動を周知するため。

◆志津川小学校で18日、義足アスリート池田樹生選手をゲストに迎え特別授業が行なわれ、5、6年生68人が義足歩行を体験した。池田選手は、義足には日常生活用とスポーツ用があることを紹介し、子どもたちがスポーツ用の義足をつけての歩行体験をした。

◆JICAの青年海外協力隊として、南三陸町の小野寺麻衣さんがモザンビークに派遣される。ザマ州では、シャイシャイにある中等教育学校の数学教員として着任し、日本の中高生と同じ年代の生徒に数学を教えるほか、教員の指導力向上も支援する。

◆志津川湾水系さけます増殖協会は、25日から海で捕った親魚を使った採卵を始める。定置網漁場者の協力で100万粒の種卵確保を目指す。

◆志津川小学校で徒歩の下校指導が、19日行なわれた。徒歩での下校指導は6月に続いて2回目となる。復興が進み通学路の環境が整いつつあるため、安全が確保できる地域について、徒歩による登下校の再開にむけた検討を進めている。

◆「東北・みやぎ復興マラソン」を主催している仙台放送が、南三陸町に減災・防災広報車1台を寄贈した。同社は大会開催の一環で、被災自治体への車両の贈呈を行なっている。

◆志津川架設魚市場で24日、「復興グルメF-1大会」が開かれた。宮城・岩手・福島の被災3県の食材を使った一品が集い、3県の5市1町から13店が参加した。

◆志津川黒崎地内の高台に、ミャンマーから贈られた大仏が建立され、25日ミャンマーの僧侶が訪れ開眼法要が行なわれた。仏像は台座を含め高さ5メートル、ミャンマーの大石製。開眼法要には、ミャンマーの僧侶8人をはじめとする約80人が参列した。

◆滋賀県の「びわっこ大使」として活動している、大津市や草津市などの小学5、6年生7人が23日南三陸町を訪れ、地元の小学生と交流した。南三陸町からは、南三陸少年少女自然調査隊の小学4～6年生10人が参加し、サケのつかみ取りや調理体験を通じ南三陸の自然に触れながら友情を育んでいた。

◆戸倉小学校4年生が26日、自分たちが育てた蚕から取れた繭玉を使ってコサージュ作りを行なった。コサージュは来年3月卒業する6年生に贈られる。